学校番号	T3009

令和８年度　工業科

教科	工業	科目	建築製図	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	建築設計製図（実教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

建築物の設計図（設計図書）を描くためには、線が引けなければなりません。設計図に引かれた線は、一本一本に意味があり、線の太さや種類により表している事柄が違います。
大きな建築物を紙の上に描く際には、そのままの大きさで描くことはできません。そのため、実物より縮小して描きます。その描き方についてのルールを理解しましょう。

２　学習の到達目標

【知識及び技術】
工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
製作図や設計図に関する課題を発見し，工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	建築設計製図に関する学習や作図・課題演習を通して，建築設計製図に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を理解し，各種建築工事における設計図書の意義や役割，作図手順などの知識を身に付けている。	各種建築工事に使用される設計図書作成に関する諸問題を，総合的な見地から的確に把握し考察を深め，建築設計製図における基礎的・基本的な知識を活用して適切に思考・判断し，創意工夫した製図法で的確に表現する力を身に付けている。	各種建築工事に使用される設計図書を作成することに興味・関心をもち，建築設計製図の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して，主体的に学習に取り組むとともに，建築技術者としての望ましい心構えや態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	線の練習	線の練習1 線の練習2 線の練習3 線の練習4 二十四角形 文字の練習	a:工業の建築分野に関する製図や設計製図について工業製品を踏まえて理解するとともに，実際に図面に表すことに必要な技術を身に付けている。 b:工業の建築分野に関する規格に着目して，工業の建築分野に関する製図や設計製図に関する課題を見いだすとともに解決策を考え，科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 c:工業の建築分野に関する製図や設計製図について自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	図面	作業記録簿	作図状況
後期	木構造の設計製図	平面図 断面図 立面図	a:木構造に関する製図や設計製図について工業製品を踏まえて理解するとともに，実際に図面に表すことに必要な技術を身に付けている。 b:木構造に関する規格に着目して，工業の建築分野に関する製図や設計製図に関する課題を見いだすとともに解決策を考え，科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 c:木構造に関する製図や設計製図について自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	図面	作業記録簿	作図状況

後期	木構造の設計製図	土台マワリ詳細図	a:木構造に関する製図や設計製図について工業製品を踏まえて理解するとともに，実際に図面に表すことに必要な技術を身に付けている。 b:木構造に関する規格に着目して，工業の建築分野に関する製図や設計製図に関する課題を見いだすとともに解決策を考え，科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる。 c:木構造に関する製図や設計製図について自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	図面	作業記録簿	作図状況

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度